

NPO 法人 未来（鳥取県倉吉市）

－ウオーキングによる地域文化の創造、地域活性化－

一般財団法人国土計画協会顧問・客員研究員 太田 秀也

1. NPO 法人 未来の活動

NPO 法人 未来（以下「未来」という）は、鳥取県倉吉市（人口 42,719 人（2026 年 4 月末現在））を拠点に活動する NPO 法人である。

倉吉市は、鳥取県中部に位置し、山陰本線の特急で鳥取市、米子市から約 30 分の距離にある。市内には江戸時代末期から戦前までに建てられた家屋や白壁土蔵が多く残り、打吹玉川地区は重要伝統的建造物群保存地区に指定されている。

未来は、2004 年 1 月に設立され、「地域と子供の未来を創造（つくる）」を理念として、ウオーキングによるまちづくり等の活動を行ってきた。

その活動により、2012 年度に地域づくり表彰・全国地域づくり推進協議会会長賞を受賞している。

以下、活動の概要を、未来の HP、いただいた資料等の情報をベースに紹介する。

(1) 活動開始のきっかけ・経緯

－NPO 設立から 22 年目－

活動は、倉吉市内の小学校の PTA 会長仲間だった父親たちが、「子どもたちは県外に進学・就職してしまう」「倉吉は何もない、なんて言われたくない」「じゃあ、自分たちで何か自慢できるものを創れないか」という会話からスタートした。

ちょうどその年（2000 年）、伊能忠敬の足跡をたどる「伊能ウオーク」が倉吉で開催されることになっており、「オヤジ」たちは、子どもたちがボランティアとして運営に参加し、地元の姿や歴史を知り、人々とふれあうことで、地域への誇りや絆が生まれまいだろうかと考え、校区の垣根を越えて活動を始めた。

伊能ウオーク倉吉大会の実行委員長は当時、河北小学校の PTA 会長だった岸田寛昭氏が務め、同ウオークが成功のうちに終わると、「ウオーキン

グ」という健康づくりの原点となる魅力、さらにもっと広い視点である「まちづくり」の大切さに気付いたメンバーたちにより、文化やスポーツ、観光、医療福祉、子どもの健全育成から若者の雇用創出まで、地域の活性化に取り組める NPO の設立を思い立った。こうして伊能ウオーク倉吉大会の実行委員長だった岸田寛昭氏を理事長に、他校の PTA 仲間や市民有志に呼び掛け、2004 年 1 月に、NPO 法人未来が設立された。

その後、日韓共同開催のウオーク大会を開催するなど、国外にも交流が広がる中、2011 年には、美しい日の入り（SUN-IN）が見られる山陰で「友好と平和の架け橋となる大会を目指そう」という思いから大会名を「SUN-IN 未来ウオーク」に改称して、ウオーク大会が継続されている。

(2) 現在の活動内容

－多岐にわたる分野の活動－

現在の活動としては、ウオーキングと健康、まちづくり事業、福祉・教育・文化など、多岐にわたる分野の活動が行われているが、主な事業は下記のようなものとなっている。

<自主事業>

- ・SUN-IN 未来ウオーク（2001 年から毎年開催、今年第 25 回大会実施）
- ・SUN-IN 100km 未来ウオーク（2012 年から毎年開催、今年第 13 回大会予定）
- ・クラカフェ運営（2010 年～現在）
- ・福祉サービス評価事業（2005 年～現在）
（社会福祉施設の福祉サービスの第三者評価事業）

<受託事業等>

- ・倉吉市・鳥取県ふるさと納税返礼品発送業務
- ・サポート事業（せきがね温泉施設指定管理）
- ・鳥取県委託事業（子育て王国とっとり、19 のまちを歩こう）

- ・倉吉市委託事業（琴櫻記念館運営）
- ・その他ウォークイベント、補助金活用事業
- ・やきとり JAPAN フェスティバル 2025 in 倉吉
事務局受託（来場者 94,500 人）

2. インタビュー、現地調査

2026 年 6 月 6 日に未来の岸田寛昭理事長へのインタビュー（インタビューは後日電話でも行った）を行うとともに、同日開催された「SUN-IN 未来ウォーク」の現地調査を行った。

(1) インタビュー

①取組について

取組の特徴などについて教えてください。

ウォーキングによるまちづくりです。

全国で約 5 千あるウォーキング大会の中でも権威ある日本マーチングリーグ（JML）を構成する大会が 17 ありますが、その中で、SUN-IN 未来ウォークは、唯一民間が主催している大会です。

ウォーキング大会を立ち上げる際に、一過性のイベントではなく、10 年続ければ文化が生まれる、ウォーキング文化を創ってゆこうという想いで始めました。今では、ウォーキング立県という動きにまでつながっています。

様々な活動を行われていますが、現在のメインの活動の内容をお教えてください。

SUN-IN 未来ウォークがメインの活動ですが、それに付随したウォーキング関連事業（ウォークイベント等）、さらにウォーキング事業の実績を評価された各種まちづくり関係の自治体等からの受託事業などを行っています。メイン活動の SUN-IN 未来ウォークは収益事業ではないため、受託事業等の収益で組織を運営しています。

②取組が継続している要因

設立から 22 年目になりますが、取組が長く継続している要因はどのようなことが考えられますか。

まず会員の維持・拡大を図っている点があります。組織活性化のためには会員が 100 は必要と考えていますが、新規加入も含め、現在、個人 90、法人 20 の会員がいます。

また活動が続けるうえで財政基盤が重要ですが、先ほど述べたように受託事業等の収益事業も手当てできています。

活動の継続のためには、後継者の育成が重要だと思いますが、その点はどうなっていますか。

役員や理事メンバー、職員はもちろんのこと、会員の皆さまの理解をいただきながら後継者の育成を進めています。

③取組の効果（地域への効果など）

取組の効果はどのようなものがありますか。

活動の方針として（近江商人の）「三方よし」の考え方を基本としており、また、「5 つの K」（健康・観光・教育・環境・交流。更に経済を加えて「6 つの K」）の効果が重要と考えています。

例えば SUN-IN 未来ウォークでは、主催者（未来）、参加者、開催地の三者により効果が生じることが重要と考えていますが、参加者にも高い評価を得ており、地域への経済効果も生まれています。今回の大会では、その経済効果を、宿泊、飲食、土産等を含め約 8,800 万円と試算しています。

④活動のなかで生じた課題

活動のなかで生じた課題があれば教えてください。

活動の上で、人・もの・金・情報が重要と考えていますが、先ほど述べたように、会員の維持・拡大や、収益事業の受託等で工夫しています。

⑤取組の今後の展望（新たな事業展開など）

今後のめざす方向や新たな事業展開の構想があれば教えてください。

空き家ビジネスなど、地域社会の課題解決と収益事業を両立させる活動（ソーシャルビジネス）を新しく進めるよう、今年度の総会でも議論し、新規事業の事業部を立ち上げたところです。

⑥地域づくりを行う団体への取組のヒント等となるアドバイス

これまでの活動を踏まえ、地域づくりを行う団体への取組のヒント等となるアドバイスがあれば教えてください。

各地域の事情が様々で一概に言えませんが、先ほど述べたように、一過性のイベントではな

く、地域に新しい文化を創ってゆこうという想いで活動すること、また「三方よし」の考えで、自らだけでなく、地域に活動の効果・利益が生じるようにすることが重要だと考えます。

その結果、活動の実績が評価され、地域自治体、経済界等から信用され、事業を委託される等、自らへ効果も返ってくる循環のようなものが生じてくるのではないかと考えています。

(2) 現地調査

6月6日に開催された「SUN-IN 未来ウオーク」(主催 NPO 法人未来)の現地調査を行った(SUN-IN 未来ウオークは、6月6日・7日の二日にかけて開催され、さらに6月8日には「せっかくウオーク」(近くの三徳山でのお坊さん体験ツアー)も開催されている)。

コースは、下記のように、様々な距離のバリエーションのあるコースが設定されており、参加費は一般 2,500 円(大学生等は 500 円、高校生以下は無料)となっている。大会は、学生を含め、多くのボランティアによっても支えられている。

Day 1					
6/6 (SAT)	37 km 日本一美しい 廃線跡 関金温泉	20 km 済州オルレ 友情の道 湯梨沢	10 km 県立美術館 & 倉吉八幡 倉吉八幡 倉吉八幡 倉吉八幡	5 km 遥かな町 倉吉	
Day 2					
6/7 (SUN)	32 km 「ばけばけ」 小泉八雲 ゆかりの道 事前申込のみ	20 km 25周年記念限定コース 日本道産三徳山 & 三朝温泉	10 km ラッピング列車 で行く北栄町 事前申込のみ	5 km 赤瓦 & ♪♪♪ 赤瓦	3 km 「サイゼンバー」 を歩こう! Kids (歩育)

事務局に確認したところ、参加者は、両日合わせて 1,910 人にのぼり、年代は 10 代以下から 90 代以上にわたり、また北海道から沖縄にわたる多くの地域(鳥取県内が 1,029 名、県外が約 743 名)、さらに海外からも約 150 名超の参加があり、毎年参加も含め、リピーターの参加者も多いということであった。

当日は、岸田理事長や広田一恭倉吉市長も 5 km コースに参加され、筆者も 5 km コースを歩かせていただいた。家族、友人などで参加される方も多く、おしゃべりしながら、それぞれのペースで楽しみながら参加されているのが印象的であった。



広田市長と岸田理事長(右)



5 km コースのスタート

3. まとめと若干のコメント

以下、NPO 法人未来の取組のポイントと思われる点をまとめるとともに、若干のコメントをしたい。

(1) 取組のポイント

①取組の位置づけ

地域外の者を地域に呼び込むことにより地域活性化を図る「事業活動」(本誌 2024 年 1 月号 53 頁参照)であり(加えて地域の文化を創造する面もある)、活動のきっかけ・経緯は「新たな企画の提案」(同誌 52 頁参照)と位置付けることができる。

②取組の継続性

活動が 20 年以上継続し、受託事業等の収益事業も手当され、活動へのボランティアの参画も活発であり、活動の継続性が期待できる。

(2) 若干のコメント

本取組は、ウォーキング大会という一過性のイベント開催の活動でなく、ウォーキングによる地域文化の創造、ウォーキングを核とした各種事業による地域活性化の事例として特色を有する。

NPO 法人設立の理念として、当初から「地域と子供の未来を創造(つくる)」を掲げ、「三方よし」の考えで、その活動により地域活性化の效果を実現しており、更に、その実績により地域からの信頼を得、事業委託等を受けるなど、好循環が生じている事例として注目される。

※本稿の内容は、筆者の見解であり、筆者の属する組織及び地域づくり表彰主催団体としての意見ではないことを申し添える。